

医ケアネット：総会記念シンポジウム

2016年6月19日：キャンパスプラザ京都 アンケートまとめ

* 講演：戦争と障害者 藤井克徳氏…

- ・ 藤井さんのお話、テレビを見て今日の話聞く場を楽しみにしていました。ご本人からの静かな口調ですが、熱い想いが伝わってきました。20代にアウシュビッツに行きました。それよりも先に、こんなことがドイツで行われていることを知りました。弱者が生きづらい世の中にならないように、しっかりとアンテナを張りたいと思います。
- ・ 今自分が関わっている利用者が…もし、自分がその立場だったら… と思うと胸がしめつけられる思いでお話を聞いていました。私たち、今を生きる人間としてできることは、月並みですが、過去から学び未来へつなげることです。しかしながら、この日本でも憲法9条の改正や安保の問題から平和が揺らぎ、将来を不安に思うことも少なくありません。私には大きなことはできませんが、目の前の利用者のために何ができるかを現場に持ち帰って、共に考え、行動したいと思います。また、個人としては自分の子どもたちに伝えていこうと思います。貴重なお話をありがとうございました。
- ・ ナチス、ドイツの社会背景(第一次大戦敗戦後の優れた人材確保へ向けた動向)の中での障害者の歴史を詳しく知ることができました。障害のある方と関わる私たちとして、知るべきことであり、伝えていかなければならないと感じました。
- ・ 「役に立たない」「働けない」という主張は、誰にとって、何のために、と突き詰めていくと、「国家のために、国民として」というところに行き着くのではないかと考えている。「個別性」「個人」「そのひとらしさ」に最もこだわらなければならない社会福祉の分野から見れば、絶対に受け入れられない思想であり、対極に位置する考え方だと思う。国家を優先する社会は個を大切にはしない。「国家」を主張するイコール戦争に近づいていくことである。狭い視野ではなく、社会の在り方を問うことは常にしていかなければと改めて思った。
- ・ お話を伺い、鳥肌が立つような感じがありました。「知らなかった」というのが正直な感想ではありますが、現在でも「ハンディのある人を支援する意見はあるのか？」と言われる方はいます。そういう現状をみると、多くはないけれど、変わらないのではないかと思います。これから私たちの出来ること、やらなければいけないこと、考えるべきことを共有していかなければと思いました。
- ・ テレビ見てませんでした、アーカイブで見ます…
- ・ アウシュビッツについては知っていたが、「価値なきいのちの抹殺」「T4作戦」「断種法」についてお話を伺い、心が痛く泣きそうでした。今後、権利条約の土台となっている底にあることを念頭に置いておきたい。

- ひとつひとつの言葉が大変重く、でも宝の言葉に聞こえました。実践への勇気がわいてくるお話でした。
- とても衝撃を受けました。ヒトラーユーゲントの視覚障害のある子どもたち、戦後まで生き残れたのでしょうか？本当におそろしい。人が人にする。凍りつきました。
- 昨年 NHK を見ていなくて、改めてよかったです。
- 「知る」ことはできてよかったです、このテーマの「論点」がよく分かりませんでした。
- 「忘れられた過去は再び起きる」本当にその通りだと思います。ヨハン・ガルトゥングさんの言っている、本当の意味の積極的平和主義をこの医ケアネットで作れると思いました。
- 戦争と障害者は、日本でも様々な事実が残っていますが、ホロコーストのドイツでこのような事実をしっかりと伺うことができ、改めて認識しました。今、日本がざわついている状態で、史実の繰り返しにならないように、しっかり見て、行動することの大切さを認識しました。個人的には、きょうされん時代から、いつも藤井さんのお話を聞く機会は期待通りで、良いお話をありがとうございました。
- 災害時や戦争時など有事の時に、社会的に弱い立場の人たちが一番不利益を受ける、という典型的な話が、藤井さんの話を通じ再確認できました。ドイツでも最近になってやっと T4 計画などの事業が明るみになったこと、NHK のテレビは録画していますが、あまだみれていなかったもので、これを機に見させてもらいます。藤井さんの気になったことを行動に移して、NHK も動かし・・・というところは感心しました。中東地域や北朝鮮などでは、障害者はどのような現状なのだろうと心配になりました。権利条約の中で、藤井さんがポイントとして抜粋して説明してくれたところも参考になりました。ありがとうございました。
- 怖い話なのでずっと避けていたことを、きょうはしっかり学ぶことができました。まだまだ勉強して、障害者問題にあたっていかねばと実感しました。
- テレビで拝見しました。この時代にナチスドイツ時代に起こったことを情報提供してただけなこと、お話を聞かせていただいたこと、ラッキーでした。午前中に福島県からゲストを招いて、当事者のお話を聞いてきました。障害を持たれた方の「保養」を受ける権利が保障されていません。今後様々な障害や疾病を抱えることになるであろう福島を中心とした東日本の方の姿と重なるように思いました。



△藤井さんも当日お話しの中でも紹介されていた。

※NHK Eテレ ハートネットTVで放送されました。

シリーズ 戦後 70 年 障害者と戦争 ナチスから迫害された障害者たち

*2015 年 8 月 25 日 (火曜) (1) 20 万人の大虐殺はなぜ起きたのか

<http://www.nhk.or.jp/heart-net/tv/summary/2015-08/25.html>

*2015 年 8 月 26 日 (水曜) (2) ある視覚障害者の抵抗

<http://www.nhk.or.jp/heart-net/tv/summary/2015-08/26.html>

*2015 年 9 月 15 日 (火曜) (3) 命の選別を繰り返さないため

<http://www.nhk.or.jp/heart-net/tv/summary/2015-09/15.html>

…動画ではありませんが、リンクをクリックすると放送内容が把握できます。

*E TV特集 2015 年 11 月 7 日

▽それはホロコーストのリハーサルだった～障害者虐殺 70 年目の真実

後日視聴者からのリクエストで総合テレビでも放送されました

<http://www.nhk.or.jp/docudocu/program/20/2259520/index.html>

* 報告：第 3 号研修機関全国アンケート調査中間報告…

- ・3 号研修、本当に広がっていないと感じています。先月、高知の全障研支部総会に講演に行ってきた、事務局の方が支援校の先生方でした。若い重症のお母さんも多く参加されたのですが、高知も支援校の先生は一切医ケアをしないと聞き、50 代の先生から、定年後に医療的ケアの人たちと関わることをしたいので、介護福祉士や初任者研修のことや、3 号研修のことを知りたくて、いろいろ質問されました。本当に学校教育の現場には色々地域格差があると感じました。
- ・当事業所でも 3 号研修を受けた職員はたくさんいるが、様々な理由によって実施までに至らないケースも多々ある。それは、スキル、知識、マンパワーなどアンケートにある内容と同じです。また、当施設に通所する利用者のヘルパーに、施設のナースから実地研修も行っているが、その後のフォローアップにまでは至っていない。さらには、実際に行ってみて「怖いから」「責任が持てないから」と撤退するヘルパー事業所もありました。当施設は通所事業で、現場にナースがいるが、居宅は福祉職だけで実施するため、よりシビアであると痛感している。そのような実態を我々現場が知り、連携し、伝えていくことも、利用者の生活支援の一部であると感じました。そして、私たち福祉職員は、吸引や胃ろう注入を行うためではなく、「その人の生活を豊かにする」という大きな目標を見失ってはいけないと改めて感じました。
- ・第 3 号研修の現状、課題や問題点を詳しく、具体的に知ることができました。これらの問題は私の所属している施設でも大きく関係していますので、これらの問題点を施設でも改めて検討し、研修を進めていきたいと考えます。

- かかえている問題は、都市部も田舎も変わらないのだと改めて思った。ただ田舎は数の問題もあって、課題が表面化しづらいだけなのかなと思う。
- 3号研修に関して、なかなか進んでいない現状があります。スタッフ体制も同時に考えなければと思いました。学校との連携も今後、相談支援の立場でしっかりと行っていききたいと思います。
- 和歌山でもなかなか進みません・・・
- 3号研修の問題、うなづけるところもありました。実地研修一つとっても、かなりの時間を費やしながらかやっています。でもそれだけ価値があります。
- 回答率 40 パーセント超え（約 100）はがんばってほしいです。
- 終了まで到達しない分析を伺って、資格取得の意義を確認して、終了者を増やしていくことが大切かと。
- 医療的ケアが必要な障害者のような重度障害者が、地域で生活する上で、北欧のパーソナルアシスタント制度のようなものがあれば良いなと私も感じています。また医ケアネットでの情報ももらいながら、個人的にも勉強していききたいと思います。
- 回収率の低迷さに対して対策をどうするのか？
- 第3号研修については、権利擁護支援の一つ、生活支援のツールに入っています。行うものとして、組み込まれるものだと思います。自立支援協議会（医療的ケア部会）を活性化していくことと、これだけの災害が行っているの、広く医療、教育、福祉の教育の中に入れて欲しいと思います。



* 討論……

- 私自身、あいほうふからの関わりなので、成人期の分野なのですが、藤井さん、杉本先生のお話である、本人の生活を中心に考えていきたい。ただ、3号研修でも、福祉職で基礎研修を受けられても、実地研修でナースの OK を受けられない人があり、出来る人を育てていくのがこの 15 年で感じています。また OK もらえた職員でも自己流になってしまいがちになり、フォローアップ、チェック機能が是非とも必要と思います。
- 前回のパーソナルアシスタントでの講義や討論ともつながる問題（教育の現場での医ケア、パーソナルアシスタントの活用）も考える機会となりました。
- 藤井さんの言う専門職と専門職の緊張感と、医療的ケアの持つ、生活と医療にまたがる

部分、少し整理できない部分がありました。福井県教委の3号研修で「障害者の地域生活」についての講義を持たせてもらっています。改めて「医療的ケア」ってどこから生まれてきたのかを話したいと思います。そこが一番大切なのだと今日思いました。

- ・ 専門職とご家族の「みぞ」という言葉には、相談支援の立場としては、私たちがコーディネーターとしてやっていかなければいけないのではないかと感じます。普段そのような立場で、ご本人、ご家族の声を届けるお手伝いをさせていただいている「つもり」になっているのではないかと反省です。
- ・ たくさんの意見で、とてもよいお話となりました。参考になります。「気づいてら責任者」肝に銘じます。
- ・ 様々なテーマで、話があちこち飛ぶようでしたが、決してバラバラではなく、一つ一つの課題がみんな結びついているように感じました。医療、福祉、そして当事者の方々が一堂に集まって討論しあう場は貴重です。
- ・ 皆さんの思い、最後は藤井さんの声を聞いて元気になりました。ありがとうございました。「平等性の欠落」という武器を持ってたたかいます！ あいほうぷの方の発言は、営利企業の参入が問題ではなく、公立施設の指定管理制度に関し、総合評価制度を導入しているので、その中で補助金の少ない業者が高得点を得るため、行政がそのような価格だけで公立施設の事業者を選ぶ危険性があるという意味だと思います。大阪北摂（吹田、豊中、箕面）の重心公立施設は、すべてこの制度になっています。
- ・ 中身の詰まった、素晴らしい時間でした
- ・ みんなの「土俵」は手段であって、みんな「ものさし」＝当事者の未来 を作る事が大切だと思っています。
- ・ 様々な立場からの実践を踏まえた発言、特に保護者さんからの発言、福祉職として聞く耳をしっかりと持たなくてはと反省しました。医療的ケアの目的を、どの立場でも共有でき、そこにしっかりと立ち、支援していくことに意味があるんだと知りました。
- ・ 総会といえば、講義があってそれに対して・・・という進め方が多いですが、総会は後に回して、今回のように討論中心に構成されている進め方は藤井さんの助言も間にあり、有意義な時間でした。「いのちの尊厳」がとても大切にされた討論と、医ケアネットの活動計画は良いと思います。
- ・ お母様方の素晴らしい発言に圧倒されました。親から学ぶ姿勢は決して忘れてはいけないことと常に思っています。
- ・ 貴重なお話、ありがとうございました。

***今後のセミナーやNPOへのご意見・ご提案……**

- ・3号研修のスキルアップの研修システムがぜひともしてほしい。
- ・ありがとうございました！
- ・学校教育における医ケアにつちえ、現場の教職員と一緒に考える場の設定があればと思っています。時代の変遷に伴って。いつもご指導ありがとうございます。
- ・保護者という表現をされていて、私も気にせず口にしていたのですが、20歳で成人と意識して、家族という表現の方がしっくりくるかなあと思いました。

……当日の様様を画像スライドでどうぞ youtube で

<https://www.youtube.com/watch?v=dkc-khWiXGs>

NPO法人医療的ケアネット 総会記念シンポジウム

法制化された第3号研修があまり進んでいない中で、医療的ケアを医療(医師・看護師)に限定されようとする動きを感じます。

3月のシンポジウムでは、24時間の公的支援体制をとっているスウェーデンのパーソナルアシスタント、札幌市のパーソナルアシスタンス制度が、成人障害者が1人で生きていくためには、どんなに障害が重くても、いつでも、どこでも、だれでも支援を受けることができることが必要と学びました。

今回は、日本障害者協議会代表の藤井克徳さんに、4月1日から「障害者差別解消法」が施行され、国会では「障害者総合支援法改正案」が提出されているいま、ホロコーストの旅を経て、あらためていのちの尊厳、人種差別、医療の果たした役割とこれらについてお話しいただき討論したいと思います。



被害者の墓を訪ねる藤井さん(中央、TPより)

program

記念講演 「障害者差別解消法」を考える
—「戦争と障害者」ホロコーストの旅から
講師：藤井克徳 (日本障害者協議会代表・社会福祉法人きょうざれん専務理事)

報告 第3号研修機関全国アンケート調査
(中間報告)から

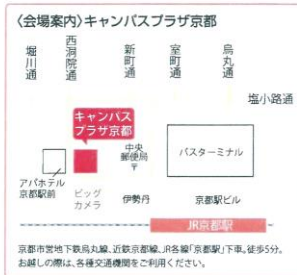
討論 コーディネーター：杉本健郎
(NPO法人医療的ケアネット理事)

※シンポジウム終了後「NPO法人医療的ケアネット2016年度総会」を開催。

交流会 Ginyuba 京都駅前店 会費5000円(要予約)
(キャンパスプラザ西向かい「アパホテル京都駅前」地下)

2016年 **6月19日** (日)

- 時間 13:30～16:50 (開場 13:00)
- 会場 **キャンパスプラザ京都 4階 第3講義室**
- 参加費 **会員1000円・非会員1500円**
※シンポジウム申し込みに入会されると会員扱いの参加費となります。



主催 **NPO法人医療的ケアネット**
TEL:075-693-6604 FAX:075-693-6605
E-MAIL:mcnet-info@mcnet.or.jp
〒601-8382 京都市南区吉祥院石原上川原町 21

申込書送付先 **FAX.075-693-6605** mcnet-info@mcnet.or.jp

NPO法人医療的ケアネット 総会記念シンポジウム ●参加申込書 ※全てご記入ください

申込者の氏名 (フリガナ)	申込者の職種	所属団体 施設など
申込者の連絡先 (TEL)	(FAX)	会員・非会員 ※どちらかに○印を 名義いたします
交流会(会費5,000円)	参加	不参加 ※どちらかに○印をおつけください

申込書受付日 **2016年6月10日** ※ただし、定員に達し次第、締め切ります。
※FAXとE-mailのみでの申込受付とします。 ※記入いただいた個人情報は、セミナーの案内など「医療的ケア」に関する情報提供のみに活用します。